

Laneed
Easy Network Solution Provider

Wireless Broadband Router

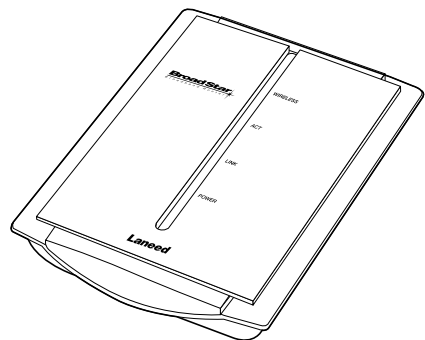
ADSLモデム内蔵 無線ブロードバンドルータ

LD-WBBR/A

ADSL USBモデム対応 無線ブロードバンドルータ

LD-WBBR/B

BroadStar
Broadband Router



必ずお読みください	P1～17
接続する	P18～20
コンピュータ側の設定	P21～24
インターネットへの接続	P25～34
無線LANの設定	P35～40
設定ユーティリティのリファレンス	P41～60
必要に応じてお読みください	P61～69

User's Manual

ADSLモデム内蔵
無線ブロードバンドルータ
LD-WBBR/A

ADSL USBモデム対応
無線ブロードバンドルータ
LD-WBBR/B

User's Manual
ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

この度は、弊社ラニードの無線ブロードバンドルータシリーズをお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルはADSLモデム内蔵モデルの"LD-WBBR/A"とADSL USBモデム対応モデル"LD-WBBR/B"の共通マニュアルです。このマニュアルには、これらの製品をコンピュータに導入するにあたっての手順が説明されています。また、お客様が"LD-WBBR/A" または"LD-WBBR/B"を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。なお、このマニュアルでは、一部の表記を除いて"LD-WBBR/A"と"LD-WBBR/B"共通の説明では、両製品を合わせて「本製品」と表記し、個別の説明の場合は「LD-WBBR/A」または「LD-WBBR/B」と表記しています。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

●このマニュアルで使われている記号

記 号	意 味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
	キーボード上のキーを表わします。

安全にお使いいただくために

Lanreed

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

	警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
	注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。



小さな子供のいるそばで、取り付け取りはずしの作業をおこなわないでください。
また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。
けがや感電をしたり、部品を飲み込んだりする危険性があります。



本製品の取り付け、取りはずしの際は、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。



本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。



本製品から煙やへんな臭いがしたときは、直ちにACコンセントからACアダプタを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。



本製品に水などの液体や異物が入った場合は、直ちにACコンセントからACアダプタを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。



本製品を水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。



本製品の取り付け、取りはずしの際は慎重に作業をおこなってください。
強引な着脱は、機器の故障や、けがの原因になります。



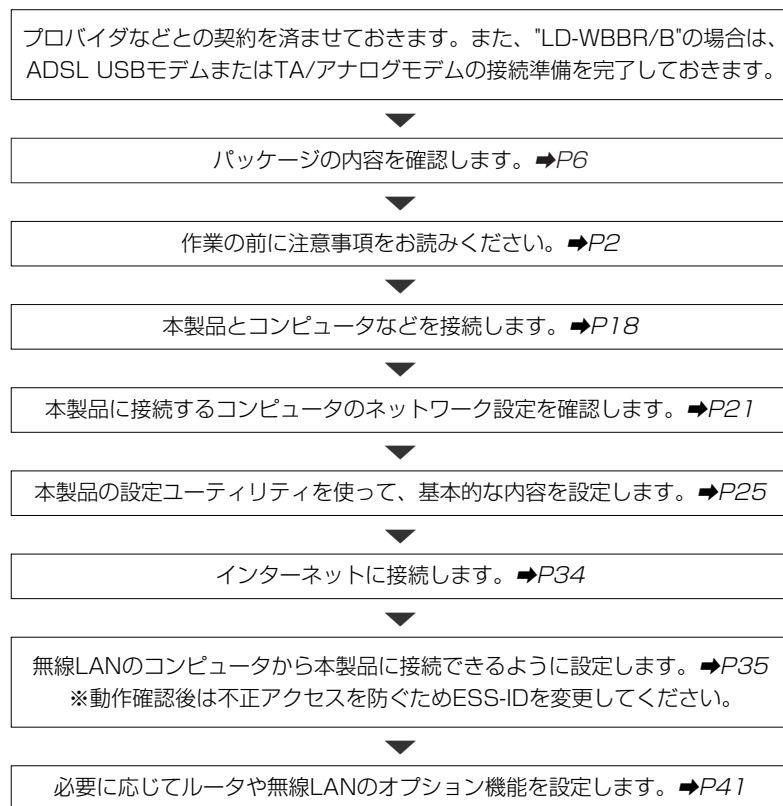
本製品を次のようなところで使用しないでください。
・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
・直射日光のあたるところ
・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
・静電気の発生するところ、火気の周辺



長期間、本製品を使用しないときは、ACアダプタを抜いておいてください。

導入の手順フロー

Lanneed



●導入後はユーザ登録(➡P7参照)をおこなってください。

もくじ

Lanneed

はじめに	1
安全にお使いいただくために	2
導入の手順フロー	4
もくじ	5

1. パッケージの内容を確認する	6	9. 設定画面のリファレンス	41
2. 製品の保証とユーザ登録	7	設定状況	41
3. 本製品の概要について	8	無線LAN設定	42
本製品の特長	8	WEPを設定する	43
本製品の動作環境	10	MACアドレスフィルタリング	46
本製品を使った機器構成	10	設定	46
各部の名称とはたらき	13	ネットワーク設定	50
4. 作業の前に必要なこと	15	バーチャルサーバ設定	52
5. 本製品を接続する	18	DMZ設定	55
6. コンピュータ側の設定を確認する	21	パケットフィルタリング設定	58
Windows Me/98での設定	21	10. その他の機能	61
その他のOSでの設定	24	ログオフボタン	61
7. インターネットへ接続する	25	ファームウェアを更新する	61
設定をはじめる前に	25	11. こんなときは	62
設定ユーティリティを表示する	26	12. サポートサービスについて	66
基本設定をおこなう	27	13. 基本仕様	68
インターネットに接続する	34		
8. 無線LANを使う	35		
無線LANだけで本製品を使う場合の注意	35		
無線LANで接続する	36		
ESS-IDを変更する	38		

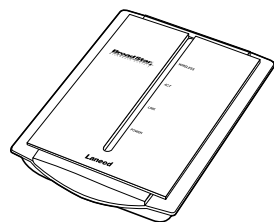
1 パッケージの内容を確認する

Lanneed

本製品のパッケージには、次のものが入っています。作業を始める前に、すべてが揃っているかを確認してください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

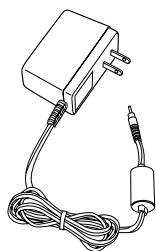
- ADSLモデム内蔵
無線ブロードバンドルータ
LD-WBBR/A 1台

- ADSL USBモデム対応
無線ブロードバンドルータ
LD-WBBR/B 1台



※お買い上げの製品に応じてLD-WBBR/A
またはLD-WBBR/Bいずれか1台を梱包

- ACアダプタ 1個
本製品専用のアダプタです。



- 壁掛け用ネジ



- ユーザ登録カード 1枚



- 保証書 1枚



2 製品の保証とユーザ登録

Lanneed

製品の保証とサービス

本製品は、保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。

- ・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

66ページ「修理の依頼」をお読みください。

●その他のご質問などに関して

66ページ「12.サポートサービスについて」をお読みください。

製品の保証とサービス

製品の導入が完了したらユーザ登録をおこなってください。お客様のユーザ登録は、インターネットからのオンライン登録または付属のハガキで登録することができます。

●オンラインでの登録

弊社ラニード・ホームページから登録が可能です。

ホームページアドレス：<http://www.elecom-lanneed.com>

●付属のユーザ登録カードでの登録

必要事項をご記入の上、ご投函ください。品番とシリアル・ナンバーは控えておいてください。裏面のアンケートにもお答えください。ご意見は、今後の製品開発などに役立てていきます。

3 本製品の概要について

Lanreed

本製品の特長

●LD-WBBR/AはADSLモデムを内蔵

本体にADSLモデムを内蔵していますので、LD-WBBR/Aだけでブロードバンドによるインターネットへの接続、無線LAN機能、さらにはLANポートに有線LANを接続することで有線LANと無線LANを同じネットワーク上で利用できます。

●LD-WBBR/BはADSL USBモデムを接続可能

本体にADSL USBモデム対応のUSBポートを装備、対応ADSL USBモデムを接続することで簡単にブロードバンドによるインターネットを楽しむことができます。また、WAN・LAN兼用ポートをWANポートとして使用する場合は、RJ45タイプのADSLモデムを接続することもできます。おもな機能としては、LD-WBBR/A同様に無線LANを利用したり、WAN・LAN兼用ポートに有線LANを接続することで有線LANと無線LANを同じネットワーク上で利用できます。

※WAN・LAN兼用ポートはどちらか一方のポートして使用できます。

●無線LAN機能によりケーブルレスで手軽にインターネット

ブロードバンドルータと無線LAN機能がひとつになりました。これにより、本製品1台で無線LANによるブロードバンドを利用した高速インターネットができるようになりました。

●PPPoEだけでなくPPPoAにも対応、自動接続が可能

PPPoE(PPP over Ethernet)だけでなくPPPoA(PPP over ATM)に対応しています。これらの認証が必要なインターネット・サービス・プロバイダに接続する場合でも、あらかじめ認証に必要な内容を設定しておくことで、毎回の接続時は認証操作なしで自動的に接続できます。

●シリアルポート接続によりTAやアナログモデムに対応

シリアルポートにTA(ターミナルアダプタ)またはアナログモデムを接続することで本製品の無線ルータ機能を利用できます。簡単な設定だけでインターネットに接続できるほか、本製品に接続された複数のパソコンから同時にインターネットにアクセスできます。

※この場合は、ISDN回線接続またはアナログ回線接続になります。

3. 本製品の概要について

●10/100Mbps対応のLANポートを装備

有線LAN用に10BASE-T、100BASE-TX対応のLANポートを1ポート搭載しています。無線LANとは別にコンピュータを1台直結したり、HUBとつなぐことで有線LANのネットワークと接続することができます。

※LD-WBBR/BはWAN・LAN兼用ポートのため、RJ45タイプのADSLモデムを接続している場合は、有線LANに接続することはできません。

●プロバイダと1契約で複数のパソコンからアクセス可能

NAT/IPマスカレード機能により、グローバルIPアドレスをローカルIPアドレスに自動的に変換します。これにより、ひとつのグローバルIPアドレスで複数のパソコンからインターネットへの同時アクセスができるようになります。プロバイダとは1契約だけでかまいません。

●TCP/IPプロトコルならWindowsマシン以外でもインターネットへ接続可能

Windowsマシンに限らず、Macintosh、LinuxなどのOSからでもTCP/IPプロトコルが設定できるOSであれば、本製品経由してインターネットに接続することができます。

●わずらわしい設定が不要なDHCPサーバ機能を搭載

DHCPサーバ機能により、各クライアントにローカルIPアドレスを自動的に割り当てることができます。

●ブラウザ対応の設定ユーティリティによる簡単設定

専用ソフトを必要とせず、パソコンのブラウザからWeb設定ユーティリティにアクセスすることで各種設定ができます。

●ネットワーク対戦ゲームなども利用可能

DHCPサーバ機能を有効にしている場合でも、DHCPサーバの割り当て範囲外でIPアドレスを固定することができます。これにより、固定IPアドレスが必要な対戦ゲームなどを楽しむことができます。

※一部のアプリケーションで対応しないものがあります。

●各種セキュリティ機能を搭載

NAT/IPマスカレード機能により、通常はWAN側からLAN側のコンピュータにアクセスすることはできません。また、IPアドレス、ポートおよびパケットによるフィルタリングが可能です。

●バーチャルサーバ機能に対応

通常ではWAN側(インターネット側)からLAN側のコンピュータにアクセスできませんが、バーチャルサーバ機能を利用すると、ローカルネットワークにある特定のパソコンだけにインターネットからのアクセスを許可することができます。これにより、特定のパソコンをサーバマシンとして使用することもできます。

本製品の動作環境

本製品はTCP/IPプロトコルを利用できるコンピュータおよびOSで使用できます。LD-WBBR/Bが対応するADSL USBモデムについては、弊社ラニードホームページでご確認ください。

ラニードホームページ URL= <http://www.elecom-laneed.com>

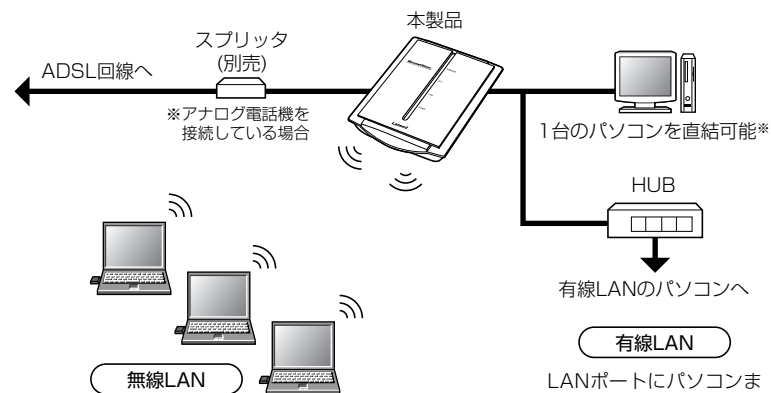
本製品を使った機器構成

本製品はADSL回線を使ったブロードバンド接続と、本製品のシリアルポートにTA(ターミナルアダプタ)やアナログモデムを接続するダイヤルアップ接続の2種類から選択できます。なお、同時使用はできません。

ブロードバンド接続

本製品をADSL回線に接続し、ブロードバンドでインターネットを利用します。無線LANが利用できるほか、LANポートには1台のパソコンを直接接続できます(クロスケーブルが必要)。また、HUBと接続することもできますので有線LAN上のパソコンも本製品を経由してインターネットに接続できます。

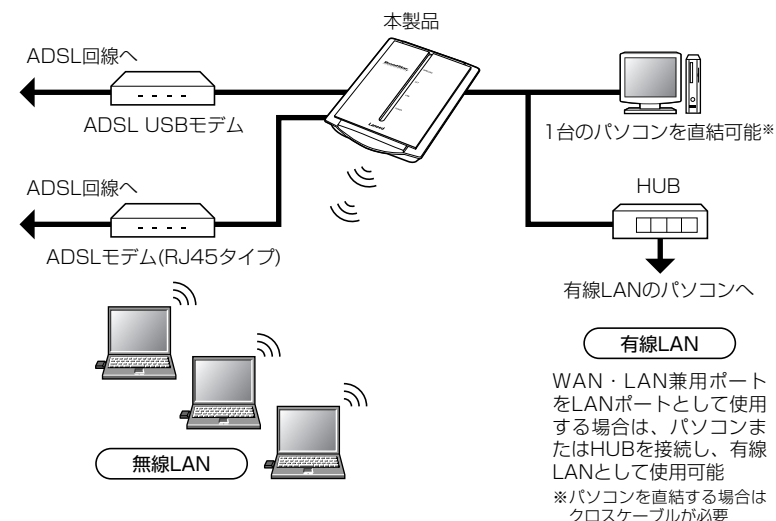
■LD-WBBR/Aの場合



有線LAN
LANポートにパソコンまたはHUBを接続し、有線LANとして使用可能
※パソコンを直結する場合はクロスケーブルが必要

■LD-WBBR/Bの場合

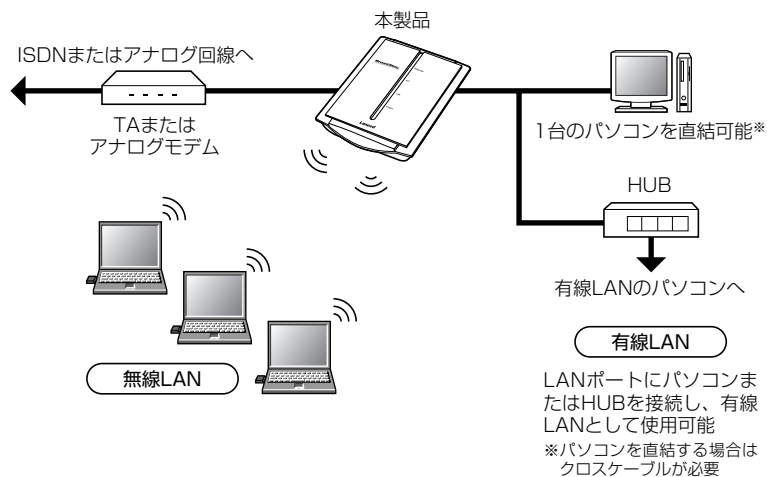
LD-WBBR/Bの場合は、ADSL USBモデムをUSBポートに接続するか、RJ45タイプのADSLモデムをWAN・LAN兼用ポートに接続するか、いずれかを選択できます。RJ45タイプのADSLモデムを使用する場合は、WAN・LAN兼用ポートはWANポートとして使用されますので、有線LANを接続することはできません。各パソコンは無線LANを経由して本製品にアクセスする必要があります。



LD-WBBR/Bでは、ADSLモデムとLD-WBBR/Bの接続が完了してから、それぞれの電源を入れてください。

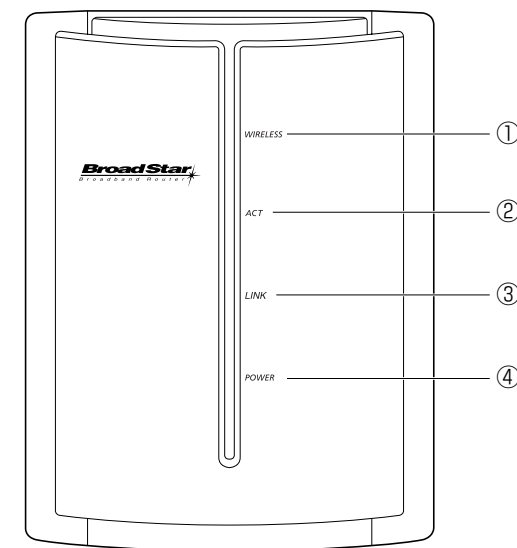
ダイヤルアップ接続

TA(ターミナルアダプタ)またはアナログモデムを本製品のシリアルポートに接続することで、ISDNまたはアナログ回線のダイヤルアップ接続によってインターネットを利用します。これにより、TAやアナログモデムからでも、複数のパソコンが同時にインターネットにアクセスできるようになります。無線LANが利用できるほか、LANポートには1台のパソコンを直接接続できます(クロスケーブルが必要)。また、HUBと接続することもできますので有線LAN上のパソコンも本製品を経由してインターネットに接続できます。



各部の名称とはたらき

■上 面



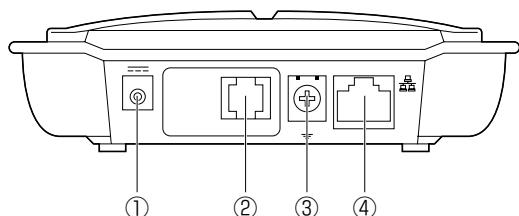
①	WIRELESS	無線LANからデータを送受信しているときに点灯します。
②	ACT	有線LANからデータを送受信しているときに点灯します。
③	LINK	ADSL回線の場合、WAN側とリンクが確立しているときに点滅し、プロバイダと接続した時点で点灯します。また、TA/アナログモデムによるダイヤルアップ接続の場合は通信中に点灯します。
④	POWER	本製品の電源が入っているときに点灯します。



MACアドレスについて

本製品のMACアドレスは本製品うら面の製品ラベルに記載されています。

■背面

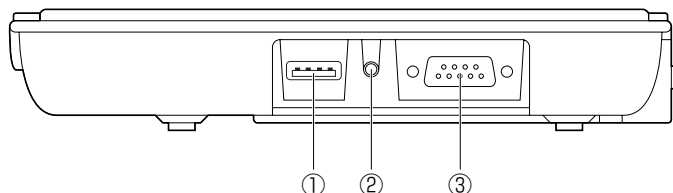


※②RJ11ポートはLD-WBBR/Aにのみ装備

①	DCジャック	本製品に付属のACアダプタの電源プラグを差し込みます。本製品に付属のACアダプタ以外は絶対に使用しないでください。
②	RJ11ポート	ADSL回線と接続します。(このポートはLD-WBBR/Aのみ)
③	アース端子	アース線と接続します。接続する場合は正しい接地先に接続してください。
④	LANポート	10/100Mbpsに対応したLANポートです。パソコンまたはHUBとRJ45タイプのイーサネットケーブルで接続します。パソコンと直接接続するときは、クロスケーブルで接続します。HUBと接続する場合はストレートケーブルで接続します。

■右側面

図のコネクタ部にはカバーがしてあります。



①	USBポート	ADSL USBモデム用のポートです。ほかのUSB機器は接続できません。また、LD-WBBR/Aはモデム内蔵モデルなので、ADSL USBモデムとは接続できません。
②	リセットスイッチ	パスワードを忘れたときなど、本製品を工場出荷時の初期状態に戻すときに使用します。使い方については65ページをお読みください。
③	シリアルポート	TA(ターミナルアダプタ)またはアナログモデムを接続する場合に使用します。

4 作業の前に必要なこと

Lanet

以下の準備が完了していることを確認してから接続作業を始めてください。また、無線LAN機能を使う場合、セキュリティ面で注意が必要です。無線LANで利用できるセキュリティ機能について理解しておいてください。

インターネット・サービス・プロバイダ(ISP)との契約など

- ADSL** ADSLで接続する場合にお読みください。
- シリアル** TA(ターミナルアダプタ)またはアナログモデムで接続する場合にお読みください。

●回線工事は完了していますか？

- ADSL** ADSLのインターネット接続サービス業者との契約は完了していますか。また、屋内までの配線工事は完了していることを確認してください。
- シリアル** TAならばISDN回線が、アナログモデムならアナログ回線が必要です。

●プロバイダと契約は完了していますか？

- ADSL** ADSLサービスのような回線接続サービスは、フレッツADSLのように、プロバイダとの契約が別途必要な場合があります。このような場合は、契約した回線接続サービスで利用可能なプロバイダとADSL接続での契約をする必要があります。この契約が完了していないと回線が接続されていてもインターネットへアクセスすることはできません。
- シリアル** プロバイダとダイヤルアップサービスの契約が完了している必要があります。

●モデムやTAなどの機器は準備できていますか？

- ADSL** "LD-WBBR/A"はADSLモデムを内蔵していますので、本製品をADSL回線に接続するだけでインターネットに接続できます。"LD-WBBR/B"については、ADSL USBモデムなどと本製品を接続する必要があります。モデムを別途購入されるように契約している場合は、本製品とは別に本製品に対応したモデムをご用意いただく必要があります。
- シリアル** シリアル接続の場合、本製品以外にTAまたはアナログモデムが必要です。

●パソコン側の必要な機器は準備できていますか？

本製品と接続するネットワーク機器には無線LANアダプタまたはイーサネットポートが搭載されている必要があります。コンピュータ本体などに内蔵されていない場合は、別途イーサネットアダプタなどをセットアップしてください。各機器のセットアップ方法はそれぞれのマニュアルをお読みください。

●必要なケーブルをご用意ください

ご使用の環境に合わせて、必要なケーブルをご用意ください。

- ・"LD-WBBR/B"の場合は、ADSL USBモデム～本製品間でUSBケーブルが1本必要です。
- ・本製品の有線LAN用のLANポートと接続するネットワーク機器の台数に合わせてRJ45タイプのイーサネットケーブルが必要です。10Mbps 環境で接続する場合は、カテゴリ3以上のケーブルをご用意ください。100Mbpsの場合は、カテゴリ5以上のケーブルをご用意ください。
- ・TAまたはアナログモデムの場合はシリアルケーブルをご用意ください。本製品のシリアルポートはD-Sub9ピン(オス)です。

設定に必要な情報の準備

本製品を設定するには、プロバイダから提供された情報が記載された資料を準備しておいてください。

●一般的な情報の例

名 称	内 容
IPアドレス	インターネットに接続するためのグローバルIPアドレスです。IPアドレスを固定的に割り当てる場合に必要です。インターネットに接続したときにプロバイダが自動的に割り当てる場合は不要です。
サブネットマスク	IPアドレスを固定的に割り当てる場合に必要です。
デフォルトゲートウェイ	IPアドレスを固定的に割り当てる場合に必要です。
アカウント※	プロバイダより必ず提供されます。
パスワード	
ドメイン名	PPPoE/PPPoA接続の場合、プロバイダより指示があります。
ユーザ名/パスワード	PPPoE/PPPoAで接続する場合に必要です。
DNSサーバアドレス	ご利用になるサービスによって必要な場合があります。プライマリとセカンダリの2種類があります。

※アカウント等の名称はプロバイダによって異なります。例えば、アカウントはユーザ名やIDなどと表記されている場合があります。



TAまたはアナログモデムの場合

TAまたはアナログモデムですでにインターネットにアクセスしていた場合は、ユーザ名、パスワードなど同じ情報を本製品の設定ユーティリティに入力する必要があります。

無線LANのセキュリティについて

無線LANは電波でデータを送受信するので、知らない間にネットワークに不正アクセスされたり、電波を盗聴される可能性があります。そこで、本製品(アクセスポイント)や無線LANアダプタには不正アクセスや盗聴を防止するためのさまざまなセキュリティ機能を備えています。

●ESS-ID(Extended Service Set ID)

もし、隣のオフィスが同じ製品もしくは同じ帯域を利用する無線LANを使用すると、ネットワークそのものが混信する恐れがあります。そこで他のネットワークと自分たちのネットワークを区別するためにESS-IDと呼ばれるネットワークの名称を決めます。同じネットワークに所属するコンピュータには同じESS-IDを設定することで、他のESS-IDを持ったネットワークとは区別され、不正アクセスを防ぐことができます。

●MACアドレスフィルタリング

ネットワークアダプタには、1台ごとに「MACアドレス」と呼ばれる固有の番号が割り当てられており、世界中に同じMACアドレスを持つアダプタは存在しません。そこで、アクセスを許可する無線LANアダプタのMACアドレスだけを登録することで、その他のMACアドレスを持った無線LANアダプタからはアクセスできないように制限することができます。この機能をMACアドレスフィルタリングまたはアクセスコントロールといいます。

●WEP(Wired Equivalent Privacy)

ESS-IDやMACアドレスフィルタリングは、不正アクセスを防止するための機能ですが、それだけでは、特殊な装置を持った第三者に意図的に盗聴される恐れがあります。本製品では、さらにセキュリティを高めるために、WEPという機能を利用できます。WEPはデータを暗号化する機能で、暗号の元になるキーワードをひとつ決め、そのキーワードから作成された数値をキーとして暗号に利用します。同じネットワークの利用者だけに暗号を知らせることで、たとえ第三者が電波を盗聴してもデータを解読することができなくなります。

5 本製品を接続する

Lanlead

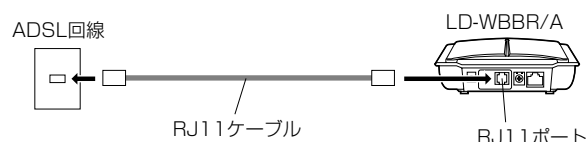
本製品の接続方法について説明します。

1 すべての機器の電源が切れていることを確認します。

2 ご使用の機種と接続方法に合わせて、回線やモデムなどと接続します。

■LD-WBBR/AでADSL回線の場合

ADSL回線とLD-WBBR/AのRJ11ポートをRJ11ケーブルで接続します。

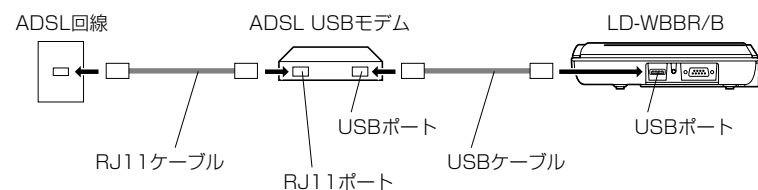


※ADSL回線の場合、アナログ電話機と分岐するためのスプリッタが接続されている場合があります。

■LD-WBBR/BでADSL回線の場合

◆ADSL USBモデムのとき

ADSL回線とADSL USBモデムをRJ11ケーブルで接続します。さらにADSL USBモデムと本製品のUSBポートをUSBケーブルで接続します。



※ADSL回線の場合、アナログ電話機と分岐するためのスプリッタが接続されている場合があります。

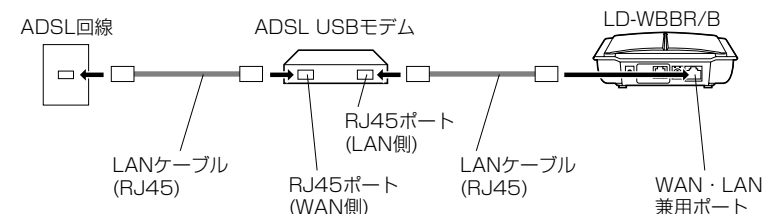


LD-WBBR/Bでは、ADSLモデムとLD-WBBR/Bの接続が完了してから、それぞれの電源を入れてください。

5. 本製品を接続する

◆RJ45タイプのADSLモデムのとき

ADSL回線とADSLモデムをRJ45ケーブルで接続します。さらにADSLモデムと本製品のWAN・LAN兼用ポートをLANケーブルで接続します。



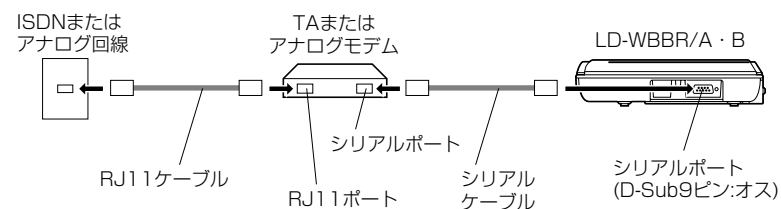
※ADSL回線の場合、アナログ電話機と分岐するためのスプリッタが接続されている場合があります。



LD-WBBR/Bでは、ADSLモデムとLD-WBBR/Bの接続が完了してから、それぞれの電源を入れてください。

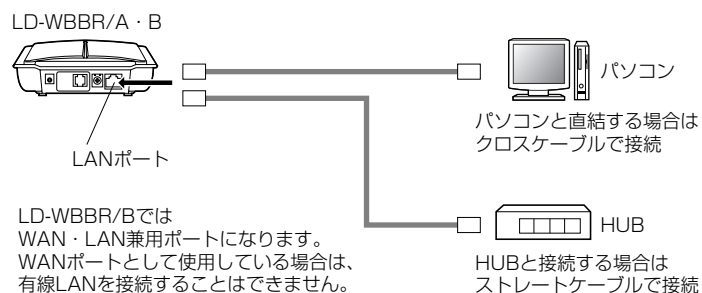
■LD-WBBR/AまたはLD-WBBR/Bでダイヤルアップ接続の場合

TAの場合はISDN回線とRJ11ケーブルで接続します。アナログモデムの場合はアナログ回線とRJ11ケーブルで接続します。さらにTAまたはアナログモデムと本製品のシリアルポートをシリアルケーブルで接続します。

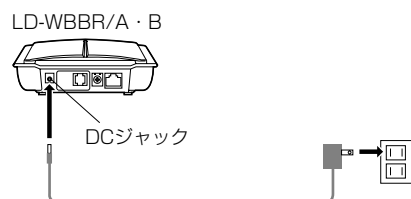


※TAの場合、アナログ電話機やFAXなどの接続方法については、TAに付属のマニュアルをお読みください。

- 3** 本製品を有線LANで使用する場合は、本製品のLANポートと有線ネットワーク機器をLANケーブルで接続します。



- 4** 本製品に付属のACアダプタをACコンセントに差し込み、電源プラグを本製品のDCジャックに差し込みます。



- 5** 本製品に接続しているモデムやTAなどの機器がある場合は、それらの機器の電源を入れます。

本製品の電源が入った状態で、本製品の上面パネルにある「LINK」のLEDインジケータが点滅していれば接続は完了です。

MEMO

点滅していない場合は・・・

本製品とのリンクを示すLEDインジケータがモデム側でも点滅していない場合は、次のことを確認してください。

- ①イーサネットケーブルのコネクタがしっかりと差し込まれているかを確認してください。
- ②モデムにMDI-Xスイッチ(結線のストレートとクロス接続を切り替えるスイッチ)を切り替えて点滅するかどうか確認してください。点滅した場合はそのままの設定にしてください。

6 コンピュータ側の設定を確認する

Lanneed

本製品を使ってインターネットへアクセスするコンピュータは、TCP/IPプロトコルに関する設定が必要です。ここでは、TCP/IPプロトコルの設定を確認する方法を説明します。すでにTCP/IPの設定が完了している場合は、25ページ「7. インターネットへ接続する」へ進みます。



有線LANでの接続については、TCP/IPプロトコルを使用できるコンピュータであればOSを問わず本製品を利用してインターネットに接続することができます。

Windows Me/98での設定

Windows Me/98でのTCP/IPに関する設定について説明します。なお、画面例はWindows Meを使用しています。Windows 98の画面と一部名称等が異なりますが設定する内容については同じです。

TCP/IPプロトコルの登録確認

利用するプロトコルとしてTCP/IPが登録されていることを確認します。

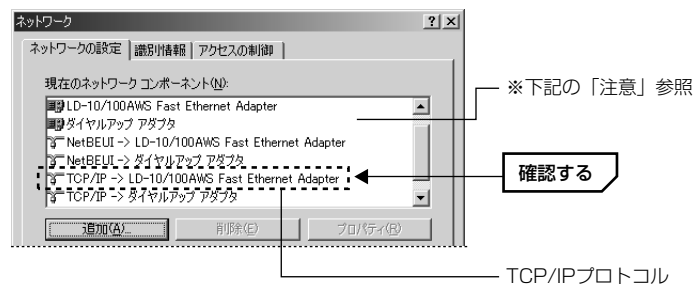
1

[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある「ネットワーク」をダブルクリックします。



- ・〈ネットワーク〉画面が表示されます。
- ・Windows Meでよく使うコントロールパネルだけが表示されている場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると「ネットワーク」が表示されます。

- 2** 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧にTCP/IPプロトコルが登録されていることを確認します。



- ご使用の環境により実際に一覧に表示されるイーサネットアダプタの名称やコンポーネントの内容は、この画面例とは異なります。
- アダプタがひとつしかない場合は、「TCP/IP」とだけ表示されます。ダイヤルアップアダプタなどがあるため、アダプタ名が複数ある場合は、「TCP/IP->(アダプタ名)」というように表示されます。(アダプタ名)に、ご使用中のイーサネットアダプタのアダプタ名が表示された「TCP/IP」プロトコルがあることを確認してください。

MEMO

TCP/IPが登録されていない場合は・・・

- ①【ネットワークの設定】タブを表示した状態で **追加** ボタンをクリックします。
- ②一覧から「プロトコル」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。
- ③「製造元」で「Microsoft」を選択すると、プロトコルの一覧が表示されます。
- ④プロトコルの一覧から、「TCP/IP」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。
「現在のネットワークコンポーネント」にTCP/IPプロトコルが追加されます。
- ⑤ネットワーク画面を閉じるときに、Windows CD-ROMを要求されることがあります。この場合は、Windows CD-ROMをドライブに挿入し、メッセージに従ってください。
- ⑥再起動を促すメッセージが表示されますので、再起動してください。

IPアドレスの設定を確認する

〈ネットワーク〉画面を表示した状態で、そのままIPアドレスの設定を確認します。

- 1** 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧でTCP/IPプロトコルを選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。

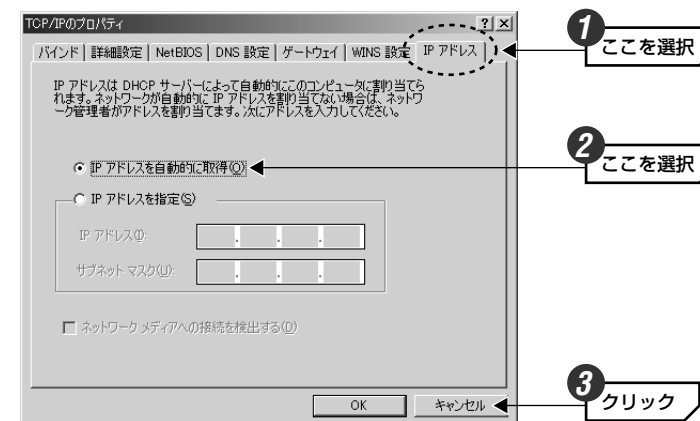


MEMO

TCP/IPプロトコルが複数登録されている場合

ダイヤルアップアダプタなどが登録されているため、複数のTCP/IPプロトコルが表示されていることがあります。このような場合は、本製品と接続しているイーサネットアダプタ名称のTCP/IPを選択します。

- 2** 【IPアドレス】タブを表示します。通常は「IPアドレスを自動的に取得」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。



MEMO

DHCPサーバを使用しない場合

IPアドレスを固定する必要がある場合などDHCPサーバを使用しないときは、「IPアドレスを指定」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを設定してください。

その他のOSでの設定**Windows 2000/NT 4.0などでの設定**

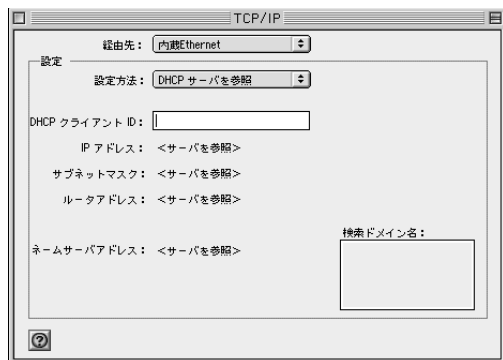
Windows 2000およびWindows NT 4.0でご使用になる場合は、サーバおよび各クライアントのネットワーク設定でTCP/IPプロトコルが設定されていることを確認してください。また、本製品および各クライアントのIPアドレスの設定がご使用になるネットワーク環境に適応した内容になっていることを確認してください。なお、本製品をクライアントとして使用する場合は、DHCPサーバ機能を「使用しない」にし、ご使用になるネットワーク環境に合わせてIPアドレスを割り当ててください。

●設定画面の表示方法

- ・ Windows 2000では、[スタート]→[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]を選択し、「ローカルエリアの接続」をマウスで右クリックしてプロパティを表示します。なお、表示名称は異なることがあります。
- ・ Windows NT 4.0では、コントロールパネルの「ネットワーク」を選択します。

Mac OSでの設定

Mac OSの場合は、コントロールパネルにある「TCP/IP」を開き、[経由先]を「Ethernet」または「内蔵Ethernet」に設定し、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定してください。

**7 インターネットへ接続する**

Lanet

インターネットに接続できるように基本的な設定をおこないます。ご契約されたプロバイダから提供された情報をご用意ください。設定が終わればインターネットに接続できるかをテストします。

設定をはじめる前に

本製品の設定は、ネットワーク上のコンピュータからInternet ExplorerなどのWebブラウザを使って設定ユーティリティにアクセスしておこないます。このとき、ネットワーク上に本製品と有線LANでつながったコンピュータがあるかないかで、設定の手順が異なります。

●有線LANでつながったコンピュータがある場合

ご使用のネットワークに本製品と有線LANによって接続されたコンピュータがある場合は、そのコンピュータから設定するようにしてください。

●有線LANでつながったコンピュータがない場合

無線LANを経由して本製品の設定ユーティリティにアクセスすることができます。この場合は、先に35ページ「8.無線LANを使う」をお読みにになり、無線LANでの接続を確認してください。

MEMO

LD-WBBR/BでRJ45タイプのADSLモデムを使用している場合

WAN・LAN兼用ポートはWANポートとして使用されていますので、無線LAN経由で設定ユーティリティにアクセスしてください。有線LANで接続したい場合は、一時的にADSLモデムとの接続ケーブルをはずし、有線LANからのLANケーブルを接続してください。

設定ユーティリティを表示する



これまでTAまたはアナログモデムでダイヤルアップ接続していた場合 Webブラウザでダイヤルアップ接続するように設定している場合は、「ダイヤルアップしない」ように設定を変更してください。
(例)Internet Explorer5の場合
[ツール]メニューにある「インターネットオプション」を選択します。【接続】タブで「ダイヤルアップしない」を有効にしてください。

1 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

2 ブラウザのアドレス入力欄に「http://192.168.1.254」と入力したあと、本製品のIPアドレスを入力し、**[Enter]** キーを押します。



・1度アクセスしてIPアドレスを変更している場合は、変更後のIPアドレスを入力します。

3 正常にアクセスすると、設定ユーティリティの画面が表示されます。



4 設定ユーティリティを表示後、右フレームのボタンをクリックしたときに「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、**[OK]** ボタンをクリックします。



- ・「ユーザー名」の初期値は「root」です。「パスワード」の初期値は空欄(設定されていない)です。ユーザー名に「root」と入力し、パスワードには何も入力せずに **[OK]** ボタンをクリックします。
- ・パスワードはブラウザを終了させるまで有効となります。



不特定多数の人が利用するような環境では、第三者に設定を変更されないように、あとでパスワードを設定するようにしてください(⇒51ページ参照)。

基本設定をおこなう

ご契約のプロバイダによって接続タイプが異なります。プロバイダから提供された資料を見ながら設定してください。

1 「簡単設定」のボタンの中からご使用にある接続タイプのボタンをクリックします。



接続タイプ	内 容	説明ページ
PPPoE接続	ADSLサービスでPPPoE接続によってインターネットに接続する場合に選択します。 (例)フレッツADSL	このあとの手順 2-A へ進みます。
PPPoA接続	ADSLサービスでPPPoA接続によってインターネットに接続する場合に選択します。	次ページの手順 2-B へ進みます。
ダイヤルアップ接続	TAまたはアナログモデムを使ってダイヤルアップでインターネットに接続する場合に選択します。	次ページの手順 2-C へ進みます。

2-A <PPPoE接続> 画面が表示されます。 **接続設定** ボタンをクリックします。

MEMO 「接続先名」には最大5個の接続先を登録できます。一度登録した接続先を変更する場合はリストから接続先を選択してから **接続設定** ボタンをクリックします。

プロバイダより提供された資料を参考に必要事項を入力します。すべての設定が終われば **保存** ボタンをクリックし、33ページの手順 **4** へ進みます。

※画面はLD-WBBR/Bの例です。

モデムタイプ	LD-WBBR/Bで表示される項目です。LD-WBBR/BでRJ45タイプのADSLモデムを接続する場合にだけ、「イーサネットタイプ」を選択してください。
VCI	LD-WBBR/Bで外付けのADSL USBモデムを接続している場合に設定します。ADSL USBモデムのマニュアルに記載されている設定値を入力します。
接続番号	<PPPoE接続> 画面の「接続先名」のリスト番号です。
接続先名	<PPPoE接続> 画面の接続先名に表示されます。複数の接続先を設定する場合は区別しやすい名称にします。

アカウント※	プロバイダより提供されたアカウントを入力します。(下記、注意参照)
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
ドメイン名※	プロバイダより提供されたドメイン名を入力します。(下記、注意参照)
DNSサーバ(プライマリ)	プロバイダによって入力が必要な場合とそうでない場合があります。プロバイダより情報が提供されている場合は、提供された数値を入力します。
DNSサーバ(セカンダリ)	
アイドル時間	アイドル時間(インターネットにアクセスしていない時間)が設定した時間を超えるとPPPoEセッションを切断します。「0」に設定すると、自動的にセッションが切断されることはありません。
起動時接続	「する」を選択すると、ADSL回線とリンクが確立した時点でプロバイダと接続します。「しない」を選択すると、インターネットに接続するには、<PPPoE接続> 画面で 接続 ボタンをクリックする必要があります。アイドル時間を過ぎたためにPPPoEセッションが切断されると、再度接続する必要があります。

※アカウント等の名称はプロバイダによって異なります。例えば、アカウントはユーザ名やIDなどと表記されている場合があります。



フレッツADSLをご利用の場合、アカウントの後に@とドメイン名を付加するように指示がありますが、本製品ではアカウント名だけを入力してください。「ドメイン名」に@を除くドメイン名を入力してください。

(例)フレッツADSLで、「yamada@laneed.net」と入力するように指示があった場合、本製品ではアカウントに「yamada」と入力し、「ドメイン名」に「laneed.net」と入力してください。「@」は入力しないでください。

2-B <PPPoA接続> 画面が表示されます。 **接続設定** ボタンをクリックします。

MEMO 「接続先名」には最大5個の接続先を登録できます。一度登録した接続先を変更する場合はリストから接続先を選択してから **接続設定** ボタンをクリックします。

次ページへ

プロバイダより提供された資料を参考に必要事項を入力します。すべての設定が
終われば **保存** ボタンをクリックし、33ページの手順 **4** へ進みます。

※画面はLD-WBBR/Bの例です。

モデムタイプ	LD-WBBR/Bで表示される項目です。LD-WBBR/BでRJ45タイプのADSLモデムを接続する場合にだけ、「イーサネットタイプ」を選択してください。
VCI	LD-WBBR/Bで外付けのADSL USBモデムを接続している場合に設定します。ADSL USBモデムのマニュアルに記載されている設定値を入力します。
接続番号	〈PPPoE接続〉画面の「接続先名」のリスト番号です。
接続先名	〈PPPoE接続〉画面の「接続先名」に表示されます。複数の接続先を設定する場合は区別しやすい名称にします。
アカウント※	プロバイダより提供されたアカウントを入力します。
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
ドメイン名	プロバイダより提供されたドメイン名を入力します。
DNSサーバ (プライマリ)	プロバイダによって入力が必要な場合とそうでない場合があります。プロバイダより情報が提供されている場合は、提供された数値を入力します。
DNSサーバ (セカンダリ)	
アイドル時間	アイドル時間(インターネットにアクセスしていない時間)が設定した時間を超えるとPPPoEセッションを切断します。「0」に設定すると、自動的にセッションが切断されることはありません。
起動時接続	「する」を選択すると、ADSL回線とリンクが確立した時点でプロバイダと接続します。「しない」を選択すると、インターネットに接続するには、〈PPPoE接続〉画面で 接続 ボタンをクリックする必要があります。アイドル時間を過ぎたためにPPPoEセッションが切断されると、再度接続する必要があります。

※アカウント等の名称はプロバイダによって異なります。例えば、アカウントはユーザ名やIDなどと表記されている場合があります。

2-c 〈ダイヤルアップ接続〉画面が表示されます。**接続設定** ボタンをクリックします。

MEMO 「接続先名」には最大5個の接続先を登録できます。一度登録した接続先を変更する場合はリストから接続先を選択してから **接続設定** ボタンをクリックします。

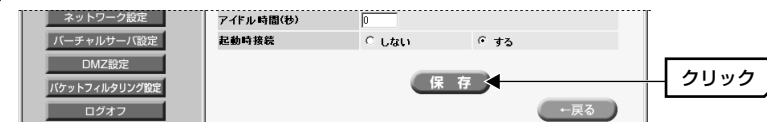
プロバイダより提供された資料を参考に必要事項を入力します。すべての設定が
終われば **保存** ボタンをクリックし、33ページの手順 **4** へ進みます。

接続番号	〈ダイヤルアップ接続〉画面の「接続先名」のリスト番号です。
接続先名	〈ダイヤルアップ接続〉画面の接続先名に表示されます。複数の接続先を設定する場合は区別しやすい名称にします。
電話番号	プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力します。内線から発信する場合(0発信)には、電話番号の前に「0」と「.」を入力して、ダイヤルするまでの間隔をあけます。「.」はダイヤルの間隔をあけるときに使用します。
アカウント※1	プロバイダより提供されたアカウントを入力します。
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
認証方式	ご利用になるプロバイダが採用している認証方式を選択します。
接続回線	ご利用になる電話回線のダイヤル方法を選択します。
シリアルスピード(kbps)※2	TAまたはアナログモデムとのデータ転送速度を選択します。
アイドル時間	アイドル時間(インターネットにアクセスしていない時間)が設定した時間を超えると自動的にインターネットへの接続を切断します。「0」に設定すると、自動的にセッションが切断されることはありません。
自動接続	「する」を選択すると、ブラウザを起動ただけで自動的にインターネットに接続します。「しない」を選択すると、インターネットに接続するたびに〈ダイヤルアップ接続〉画面で 接 続 ボタンをクリックする必要があります。
DNSサーバ(プライマリ)	プロバイダによって入力が必要な場合とそうでない場合があります。プロバイダより情報が提供されている場合は、提供された数値を入力します。
DNSサーバ(セカンダリ)	
初期化コマンド※2	TAまたはアナログモデムに送信するコマンドを入力します。初期化コマンドの初期設定は次のとおりです。 初期化コマンド: ATHOE1 「HO」・・・モデムを回線から切り離します。 「E1」・・・コマンドエコーありに設定します。 切断までのアイドル時間(秒): 180

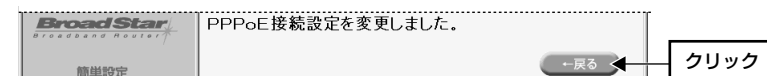
※1 アカウント等の名称はプロバイダによって異なります。例えば、アカウントはユーザ名やIDなどと表記されている場合があります。

※2 これらの項目の設定には、TAまたはアナログモデムのマニュアルも併せてお読みください。

3 設定が终れば、**保 存** ボタンをクリックします。



4 接続設定を変更したことを知らせるメッセージが表示されます。**←戻る** ボタンをクリックします。



※PPPoE接続の場合の画面例

5 DNSなどを変更すると、本製品に接続する各クライアント(コンピュータ)のIPアドレス等を書き換える必要があります。

- ・ Windows Me/98では「winipcfg」を実行します。詳しくは64ページ「IPアドレス等がわからない」をお読みください。
- ・ Windows 2000/NT 4.0では「ipconfig」を実行して書き換えます。

これでインターネットへの接続に関する基本設定は完了です。インターネットに接続できるかを確認します。次ページの「インターネットに接続する」へ進みます。

MEMO

設定を変更した場合は・・・

保 存 ボタンをクリックしてください。再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ～ **7** を参照してください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。



予期せぬ通信料金の発生を防ぐため「切断までのアイドル時間(秒)」は必ず設定してください。

インターネットに接続する

設定が終わればインターネットに接続できるかをテストします。

MEMO

●PPPoE/PPPoA接続の場合

PPPoEおよびPPPoA接続で「起動時接続」を「しない」に設定している場合は、インターネットに接続する前に、PPPoEまたはPPPoA接続画面で **接続** ボタンをクリックして、手動で接続する必要があります。

●ダイヤルアップ接続の場合

ダイヤルアップ接続で「自動接続」を「しない」に設定している場合は、インターネットに接続する前に、ダイヤルアップ接続画面で **接続** ボタンをクリックして、手動で接続する必要があります。

1 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

2 設定画面で「起動時接続」任意のホームページアドレスを入力し、キーボードの **Enter** キーを押します。

◆http://www.elecom-laneed.comを入力した場合



※画面例の表示内容は更新により、変更されることがあります。

3 目的のホームページが表示されれば設定は完了です。正常に表示されない場合は、62ページ「11.こんなときは」をお読みください。

他の詳細な設定項目については、41ページ「9.設定画面のリファレンス」をお読みください。

8 無線LANを使う

Laneed

本製品の無線LAN機能を利用します。本製品は無線LANのアクセスポイントとして機能します。本製品に対応した無線LANアダプタを別途ご用意いただくと、ケーブルレスでインターネットを楽しんだり、ネットワーク上のコンピュータとデータのやり取りができます。

無線LANだけで本製品を使う場合の注意

●導入時の注意

無線LANだけで本製品を使う場合、本製品と接続できる手段は、無線LANアダプタを持ったコンピュータからの接続だけになります。この場合、本製品と無線LANアダプタを持ったコンピュータで、ESS-IDなど無線LANの設定が異なると接続することができません。接続できないということは、本製品の設定ユーティリティにアクセスできないため本製品側の無線LANの設定を変更することができません。そのため、次のような手順で無線LANの設定をおこなってください。詳しい手順は36ページ「無線LANで接続する」をお読みください。

ご使用になるコンピュータに無線LANアダプタのドライバをインストールし、必要なネットワーク設定が完了した状態にします。

下記の設定に無線LANアダプタの設定を合わせます。

ESS-ID: Laneed(大文字/小文字を区別)

通信モード: インフラストラクチャ・モード

WEP設定: 無効(WEPを使用しない)

※弊社の無線LAN PCカード/USBアダプタは初期値にしておけば、そのまま本製品に接続できるように設定されています。

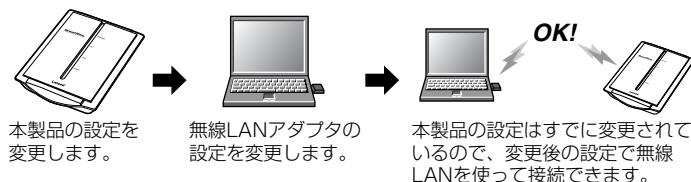
本製品を起動した状態で、無線LANアダプタのあるコンピュータを起動します。

Webブラウザを起動します。アドレスに「http://192.168.1.254」と入力し、**Enter** キーを押します。26ページ手順 **3** の画面が表示されれば無線LANは正常に動作しています。

このあと、ESS-IDの変更や各種セキュリティの設定をおこないます。ESS-IDが初期値のままだと、混信や不正アクセスの原因になりますので、ESS-IDだけは必ず変更してください。

●設定変更時の注意

ESS-IDおよびWEPを変更する場合は、先に本製品側の設定を変更し、次に無線LANアダプタ側の設定を変更します。先に無線LANアダプタ側の設定を変更すると、本製品の設定が変更前の状態のままなので、無線LANからは設定ユーティリティにアクセスできなくなります。



本製品の設定の変更は、無線LANからアクセスして変更できます。ただし、変更した設定を保存し、再起動した時点で本製品と無線LANアダプタとの間で設定内容が異なってしまうため、無線LANアダプタの設定を変更するまで接続できません。

無線LANで接続する

本製品に無線LANで接続できるように設定します。

1 あらかじめ無線LANで接続するコンピュータについて、無線LANアダプタが正常に動作するように設定しておきます。

- ・ドライバのインストールを完了しておきます。
- ・プロトコルにTCP/IPが設定されていることを確認しておきます(⇒21ページ)。
- ・「IPアドレスを自動的に取得」に設定されていることを確認します(⇒23ページ)。
- ・ドライバのインストールについては、アダプタのマニュアルをお読みください。

2 無線LANアダプタのESS-ID等の設定が次のようになっていることを確認します。

◆設定値

ESS-ID	Lanecd (大文字/小文字を区別)
通信モード	インフラストラクチャ・モード(アクセスポイントを使用する)
WEP設定	無効(WEPを使用しない)



◆弊社製LD-WL11/PCCの例

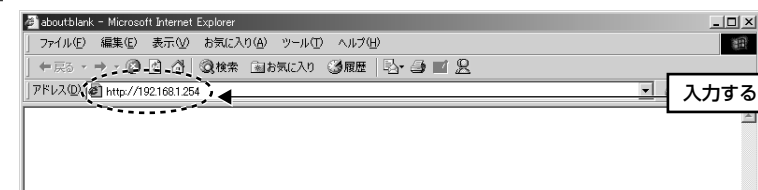
MEMO 弊社の無線LAN製品Air@Hawkシリーズの無線LAN PCカードと無線LAN USBアダプタは、初期値のまま設定を変更しないでください。そのままの設定で本製品に接続することができます。

3 本製品の電源が入っていることを確認します。

4 無線LANアダプタを取り付けたコンピュータを起動します。

5 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

6 アドレスに「http://192.168.1.254」と入力し、[Enter] キーを押します。



7 本製品の設定ユーティリティが表示されれば、無線LANは正常に動作しています。



これで無線LANでの接続を確認できました。ESS-IDが初期値のままだと、混信や不正アクセスの原因になりますので、ESS-IDだけは必ず変更してください。

ESS-IDを変更する

無線LANの混信や不正アクセスを防ぐため、ESS-IDを初期値から別の内容に変更します。



本製品の設定ユーティリティに無線LANからアクセスしている場合は、必ず先に本製品側の設定を変更し、次に無線LANアダプタ側の設定を変更してください。



より高度なセキュリティを確保するためにはWEP(⇒43ページ)やMACアドレスフィルタリング(⇒46ページ)などを設定すると安心です。

1 本製品の設定ユーティリティを表示します。〈ネットワークパスワードの入力〉画面が表示されます。ユーザ名とパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックします。

2 メニューで [無線LAN設定] ボタンをクリックします。

3 「ESS-ID」に新しいESS-IDを入力し、[保存] ボタンをクリックします。

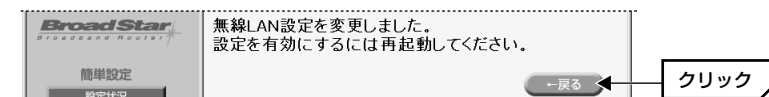


ESS-IDを半角英数字32文字以内で入力します。大文字と小文字が区別されます。



ここで設定した名称は、無線LANで接続するコンピュータすべて同じ名称にします。ESS-IDの異なるコンピュータに接続することはできません。本製品のESS-IDを「Tokyo」に設定した場合は、無線LANアダプタのESS-IDが「Tokyo」のグループは接続できますが、無線LANアダプタのESS-IDが「Osaka」のグループは接続できません。

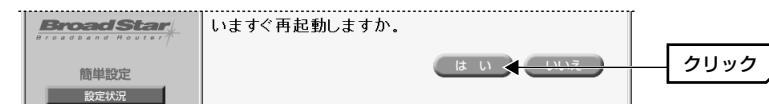
4 再起動を促す画面が表示されます。[戻る] ボタンをクリックします。



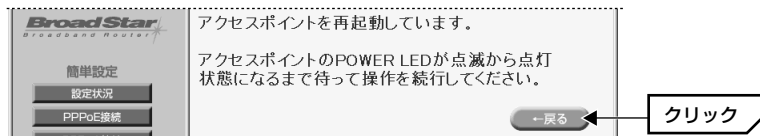
5 左フレームのボタンに [再起動] ボタンが表示されます。このボタンをクリックします。



6 すぐに再起動するかを確認するメッセージが表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。



- 7** 本製品のシステムを再起動します。本製品の「POWER」ランプが点滅から点灯に変わるまで待ってから、**←戻る** ボタンをクリックします。



- システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。
- システムを再起動した時点で、無線LANアダプタ側の設定が終わるまでは、無線LANアダプタから本製品に接続することができなくなります。

- 8** 無線LANアダプタの設定ユーティリティを起動し、アダプタ側のESS-IDを本製品に設定したESS-IDに変更します。

◆弊社LD-WL11/PCCでの設定例



これで、新しいESS-IDで本製品と無線LANアダプタが接続できるようになります。

より高度なセキュリティ機能として、MACアドレスフィルタリングやWEPを設定することができます。各機能の意味については17ページ「無線LANのセキュリティについて」をお読みください。設定方法については次ページ以降の「9.設定画面のリファレンス」をお読みください。

9 設定画面のリファレンス

Lanneed

本製品には多くの機能があります。これらの機能を利用すると、より有効にインターネットや無線LANを利用できます。ここでは画面別に各機能について説明しています。

設定状況

本製品の設定状況を表示します。

設定状況	
PPPoE	現在の接続タイプ
起動時接続	する
接続状態	切断
ESS-ID	Tokyo
チャンネル	6
IPアドレス	192.168.1.254
DHCPサーバ	使用する
WEP	使用しない
MACアドレスフィルタ	使用しない
パスワード	なし

起動時接続	PPPoE/PPPoA接続の場合に表示されます。本製品が起動し、ADSL回線とリンクが確立したときに、自動的にプロバイダと接続するかどうかの設定状態を表示します。
自動接続	ダイヤルアップ接続の場合に表示されます。Webブラウザを開いたときに、自動的にプロバイダと接続するかどうかの設定状態を表示します。
接続状態	現在の接続状態を表示します。
ESS-ID	現在のESS-IDの設定値を表示します。
チャンネル	現在、本製品のアクセスポイントとしての機能が使用しているチャンネルを表示します。
IPアドレス	LAN側の現在のIPアドレスを表示します。
DHCPサーバ	DHCPサーバ機能が有効であるか、無効であるかを表示します。
WEP	WEP機能の使用状態を表示します。
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスフィルタリング機能の使用状態を表示します。
パスワード	パスワードを設定しているかどうかを表示します。

無線LAN設定

無線LANに関する設定項目です。

MEMO

設定を変更した場合は・・・

保存 ボタンをクリックしてください。再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ～ **7** を参照してください。



再起動する場合の注意

- システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。
- システムを再起動した時点で、無線LANアダプタ側の設定が終わるまでは、無線LANアダプタから本製品に接続することができなくなります。

●ESS-ID

半角英数字32文字以内で入力します。大文字と小文字が区別されます。本製品への接続を許可する無線LANアダプタのグループは、すべて同じESS-IDを設定します。初期値は「Laneed」ですが、必ず他のESS-IDに変更してください。不正アクセスを防ぐため第三者に簡単に推測されるような名称は使用しないでください。

●チャンネル

無線LANで使用する周波数帯のチャンネル番号を設定します。本製品以外にアクセスポイントを使用している場合や混信がある場合に変更します。本製品以外にアクセスポイントがある場合は、できるだけ5チャンネル以上空けてください。

(例) 1ch : 6ch : 11ch : 14ch

●WEP

このあとの「WEPを設定する」をお読みください。

WEPを設定する

無線LAN上でやり取りされるデータを盗聴から保護するためにWEP(Wired Equivalent Privacy)に基づいてデータを暗号化します。WEPの設定をしていないクライアント(コンピュータ)は、データを読み取れなくなります。WEPについての説明は17ページ「WEP(Wired Equivalent Privacy)」を参照してください。

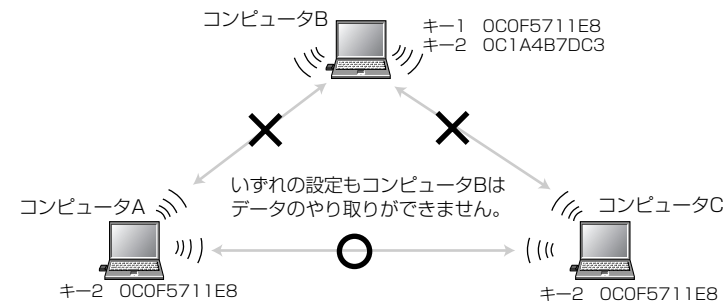


無線LANのクライアントから設定する場合

無線LANのクライアントから本製品の設定ユーティリティを起動している場合は、先に本製品側のWEP設定をおこない、次に無線LANアダプタのWEP設定をおこなってください。先に無線LANアダプタのWEP設定の内容を変更すると、本製品に接続できなくなります。

WEP設定のポイント

WEPキーにはキー1～キー4まであり、同時に4種類のキーを登録できます。コンピュータAとコンピュータBの間で暗号化したデータをやり取りする場合は、それぞれが同じWEPキー番号(キー1～キー4のいずれか)を選択し、同じキーワードを入力します。これで相互に暗号化されたデータを正しく受信できます。キー番号は4つありますが、実際に使用するのはひとつだけです。使用するWEPキー番号にだけ文字列を設定してもかまいません。WEPを設定しても暗号キーの文字列が異なったり、文字列が同じでも使用するWEPキー番号が異なったりすれば、データはやり取りできません。



WEPの設定手順

1 リストの中から使用するWEPの種類を選択します。

WEP

使用しない

64(40)bit

128bit

いずれかを選択

使用しない	WEPを使用しません。
64(40)bit	64bitの暗号キーを使用します。10桁の16進数で表します。WEP40(40bit暗号化)と互換があります。無線LANアダプタがWEP40にしか対応していない場合はこちらを選択します。
128bit	128bitの暗号キーを使用します。64bitよりも高度なセキュリティを確保できます。26桁の16進数で表します。

※16進数とは0～9の数字a～fのアルファベットで構成される文字列です。

2 すべての暗号キーに16進数(半角英数字：0～9の数字と小文字a～fのアルファベットで構成される文字列)を入力します。

◆64bitの場合

WEP

64(40)bit

暗号キー設定

キー-1 0ab21e35dc

キー-2 1fe9e52bcc

キー-3 97e3be845d

キー-4 dca747b811

入力する

- ・64bitの場合は10桁の文字列を入力します。
- ・文字数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。a～fは小文字で入力します。

◆128bitの場合

WEP

128bit

暗号キー設定

キー-1 1A2B3C55E08B6DFFC2100E4C

キー-2 9F8E7G1A2B3C44DD3C2B1A954

キー-3 EF21C33BR712AD93E97DB22D3I

キー-4 DCC4B559EFG317A7BD852CF2

入力する

- ・128bitの場合は26桁の文字列を入力します。
- ・文字数は固定で、多くても少なくても正しく設定できません。a～fは小文字で入力します。



- 実際には使用しないキー番号も含めすべてのキー番号に文字列を入力してください。
- 入力できる文字は16進数(半角英数字：0～9の数字とa～fのアルファベット)だけです。a～fのアルファベットは必ず小文字で入力します。また、文字数は指定の文字数と異なると正しく設定できません。

3 4つの暗号キーの中から、実際に使用するキー番号を選択し、**保存** ボタンをクリックします。

WEP

64(40)bit

暗号キー設定

キー-1 0ab21e35dc

キー-2 1fe9e52bcc

キー-3 97e3be845d

キー-4 dca747b811

保存

いずれかを選択

- ・本製品およびデータのやり取りをする無線LANのクライアントには、同じ文字列の入った同じキー番号を指定する必要があります。

4 再起動を促す画面が表示されます。**戻る** ボタンをクリックします。

BroadStar

無線LAN設定を変更しました。
設定を有効にするには再起動してください。

簡単設定

設定状況

戻る

クリック

5 左フレームのボタンに**再起動** ボタンが表示されます。このボタンをクリックします。

ログオフ

再起動

再起動が必要です！

クリック

6 すぐに再起動するかを確認するメッセージが表示されますので、**はい** ボタンをクリックします。

BroadStar

簡単に再起動しますか。

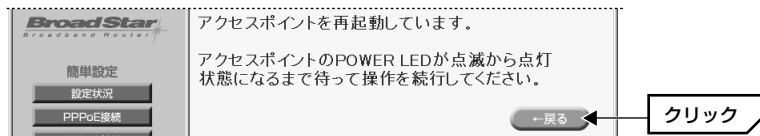
簡単設定

設定状況

はい

クリック

- 7** 本製品のシステムを再起動します。本製品の「POWER」ランプが点滅から点灯に変わるまで待ってから、**←戻る** ボタンをクリックします。



- システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。
- システムを再起動した時点で、無線LANアダプタ側の設定が終わるまでは、無線LANアダプタから本製品に接続することができなくなります。

これでWEPの設定は完了です。クライアントになるすべての無線LANアダプタに同じ設定をしてください。

MACアドレスフィルタリング設定

MACアドレスフィルタリングは、無線LAN経由で本製品にアクセスを許可するクライアント(コンピュータ)を無線LANアダプタのMACアドレスを使って制御する機能です。ここに登録されたクライアントは本製品への接続を拒否されます。最大1200個のMACアドレスを登録できます。なお、MACアドレスフィルタリングが有効なのは、本製品のアクセスポイント機能を経由して接続するクライアントだけで、有線LANを経由して接続するクライアントは制御できません。



設定を変更した場合は・・・

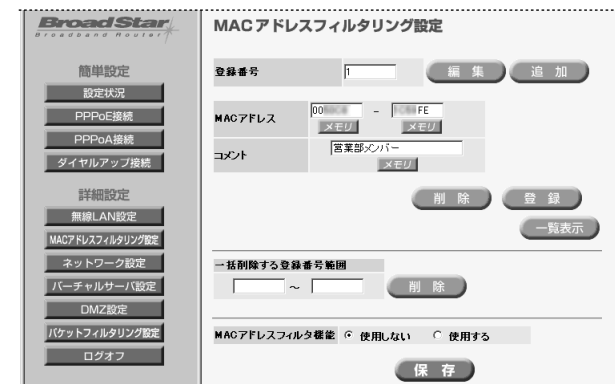
保存 ボタンをクリックしてください。再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ～ **7** 以降を参照してください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。

◆MACアドレスフィルタリング



●登録番号

登録したMACアドレスの登録番号を表示します。

●MACアドレス/コメント

MACアドレスフィルタリングの対象となるMACアドレスを入力または表示します。「コメント」には、簡単な説明を記入できます。また、MACアドレスとコメントは **メモリ** ボタンで直前に登録した内容を貼り付けることができます。複数のMACアドレスを登録するときに便利です。

●一括削除する登録番号範囲

登録したMACアドレスをまとめて削除することができます。

●MACアドレスフィルタリング機能

登録した内容に基づいてMACアドレスフィルタリング機能を有効にする場合は「使用する」を選択します。

MACアドレスを登録する/登録内容を編集する

- 1** 新しくMACアドレスを登録する場合は、「追加」ボタンをクリックします。登録済みのMACアドレスを編集する場合は、「編集」ボタンをクリックします。

MEMO 登録済みのMACアドレスの登録番号を知りたいときは、「一覧表示」ボタンをクリックすることで一覧として見ることができます。

- 2** 追加の場合は、「MACアドレス」に登録したいクライアントのMACアドレスを入力し、「コメント」には必要に応じて入力します。編集の場合は、登録済みの内容が表示されますので、変更したい内容を編集します。

・大文字/小文字は区別されません。大文字で入力した場合は、保存すると小文字に変換されます。

MEMO メモリボタンについて

「登録」ボタンをクリックして保存した直近の登録内容についてMACアドレスの上6桁と下6桁およびコメントを記憶しています。「メモリ」ボタンをクリックすると、その内容を貼り付けることができます。

- 3** 入力が終われば、「登録」ボタンをクリックします。

MACアドレスが登録されると、各入力項目はリセットされます。これでMACアドレスの登録は完了です。登録したMACアドレスをフィルタリングする場合は、「MACアドレスフィルタリング機能」を「使用する」に設定してください。

MACアドレスを削除する

登録したMACアドレスは、1個単位で削除できるほか、連続した登録番号であれば、まとめて削除することができます。

●1個単位で削除する

削除したいクライアントの登録番号を入力します。表示されたMACアドレスを確認し、「削除」ボタンをクリックします。

●一括削除(まとめて削除する)

連続した登録番号の内容を削除する場合は、削除したい先頭の登録番号と終わりの登録番号を入力し、「削除」ボタンをクリックします。

ネットワーク設定

ネットワークに関する設定項目です。ご使用になるネットワークの環境に合わせて設定してください。

MEMO

●設定を変更した場合は・・・

保存 ボタンをクリックしてください。再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ～ **7** を参照してください。

●IPアドレス等を再取得してください

ネットワーク設定を変更した場合は、本製品に接続する各クライアント(コンピュータ)のIPアドレス等を書き換える必要があります。Windows Me/98では「winipcfg」を実行します。詳しくは64ページ「IPアドレス等がわからない」をお読みください。Windows 2000/NT 4.0では「ipconfig」を実行して書き換えてください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。

◆ネットワーク設定

●本体IPアドレス

本製品のIPアドレスを設定します。ご使用のネットワークで指定されたIPアドレスがない場合は、特に変更の必要はありません。

●サブネットマスク

本製品のサブネットマスクを設定します。ご使用のネットワークで指定されたサブネットマスクがない場合は、特に変更の必要はありません。

●DHCPサーバ

インターネットへの接続に必要なTCP/IPプロトコルは、接続するクライアント(コンピュータ)を区別するために、コンピュータごとに異なったIPアドレスを割り当てる必要があります。クライアントの台数が多いネットワークでは、手でIPアドレスを割り当てると手間がかかります。DHCPサーバ機能を利用すると、ネットワーク上のクライアントに対してIPアドレスが重ならないように自動的に割り当てることができます。

DHCPサーバ機能を使用する場合は「使用する」をクリックします。

DHCPサーバがクライアントに自動的に割り付けるIPアドレスの開始アドレスを指定します。入力したIPアドレスを含め指定台数のクライアントに対してIPアドレスを割り当てます。ネットワークに接続するクライアントの最大数を割り当ててください。

DNSサーバを使用する場合は、DNSサーバのIPアドレスを指定します。接続設定で指定している場合、その値が表示されます。

●パスワード

管理者だけが設定ユーティリティにアクセスし、設定内容を変更する場合はパスワードを設定してください。入力できる文字は半角英数字15文字までです。パスワードを設定していない場合、本製品にアクセス可能なクライアントから自由に設定内容を変更できます。変更手順は次のとおりです。

- ①「管理者パスワード」に新しいパスワードを入力します。
- ②「パスワード確認」にもう一度、新しいパスワードを入力します。
- ③〈設定状況〉画面で設定が変更されていることを確認します。

●次回から〈ネットワークパスワード入力〉画面が表示された場合は、新しいパスワードを入力してください。

バーチャルサーバ設定

バーチャルサーバ機能は、LAN上にあるクライアント(コンピュータ)をインターネットサービスに開放することができる機能です。通常NAT変換を利用するルータでは、WAN側(インターネット側)からLAN上のクライアントにアクセスすることはできませんが、バーチャルサーバ機能を利用すると本製品のWAN側に対する接続要求をLAN側の特定のクライアントに転送することができます。本製品では最大64個の設定を登録できます。

インターネットではサービスごとに使用するプロトコルと接続ポートが決めているので、あらかじめ各サービスに接続するクライアントを登録しておくことで、WAN側に接続要求があった場合に、アクセスを許可したプロトコルとポートに対応したクライアントに転送することができます。

◆バーチャルサーバ設定

バーチャルサーバを登録する/登録内容を編集する

- 1 新しく登録する場合は登録したい番号を入力します。すでに登録した内容を編集する場合は、その登録番号を入力します。 **編集** ボタンをクリックします。

- ・新しく登録する場合は、未使用の番号を入力します。
- ・ **編集** ボタンをクリックすると、新しく登録する場合は登録番号だけが、編集の場合はその登録番号の設定内容が表示されます。

- 2 各項目を入力または編集し、 **登録** ボタンをクリックします。

WAN側	有効	この番号の設定内容を有効にする場合にチェックします。
	プロトコル	バーチャルサーバとのアクセスを許可するプロトコルの種類をTCPまたはUDPから選択します。
	IPアドレス	WAN側のIPアドレスを入力します。複数のWAN側IPアドレスがあり、すべてのWAN側IPアドレスとのアクセスを許可する場合は空白にします。
	ポート	アクセスを許可するサービスポートを指定します。
LAN側	IPアドレス	バーチャルサーバとしてアクセスを許可するLAN側のクライアント(パソコン)のIPアドレスを入力します。
	ポート	アクセスを許可するサービスポートを指定します。

- 3 設定内容が登録されます。 **戻る** ボタンをクリックします。

- 4 設定画面に戻ります。登録した内容が表示されます。さらにバーチャルサーバを設定する場合は、手順 **1** ~ **4** の操作をくり返します。

- 5 すべてのバーチャルサーバの登録が終われば、 **保存** ボタンをクリックします。



正常に登録されていない内容については、「有効」に×マークが表示されますので、編集で修正してください。

- 6** 再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ~ **7** を参照してください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。

バーチャルサーバの登録を削除する

登録したバーチャルサーバを削除します。

- ①削除番号に削除したい登録番号を入力し、**削除** ボタンをクリックします。
- ②すべての削除が終われば、**保存** ボタンをクリックします。
- ③メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ~ **7** を参照してください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。

DMZ設定

DMZ機能とは、通常NAT変換を利用するルータでは、WAN側(インターネット側)からLAN上のコンピュータにアクセスすることはできないため、インターネットゲームなどを利用することができません。DMZ機能を利用すると指定したクライアント(コンピュータ)へのWAN側からのアクセスを許可するのでインターネットゲームなどを楽しむことができます。最大8個のDMZを登録できますが、WAN側のIPアドレス1個につき有効にできる設定はひとつだけです。



この機能を有効にすると、指定したIPアドレスを持つクライアントは、WAN側から自由にアクセスできるようになるため、不正侵入されやすくなります。この機能を利用するときはファイアウォールなどのセキュリティを十分に注意してください。

◆DMZ設定

DMZを登録する/登録内容を編集する

- 1** 新しく登録する場合は登録したい番号を入力します。すでに登録した内容を編集する場合は、その登録番号を入力します。**編集** ボタンをクリックします。

- ・新しく登録する場合は、未使用の番号を入力します。
- ・**編集** ボタンをクリックすると、新しく登録する場合は登録番号だけが、編集の場合はその登録番号の設定内容が表示されます。

2 各項目を入力または編集し、**登録** ボタンをクリックします。

番号	有効	WAN側		LAN側
		プロトコル	IPアドレス	IPアドレス
1	☒	tcp	202.255.1.51	192.168.1.151

登録 クリック

WAN側	有効	この番号の設定内容を有効にする場合にチェックします。最大8個のDMZを登録できますが、WAN側のIPアドレス1個につき有効にできる設定はひとつだけです。
	プロトコル	DMZによりLAN側のIPアドレスのクライアントへのアクセスを許可するプロトコルの種類をTCPまたはUDPから選択します。
	IPアドレス	WAN側のIPアドレスを入力します。PPPoE/PPPoA接続またはダイヤルアップ接続で取得したWAN側のIPアドレスに対してクライアントとの接続を許可する場合は、何も入力せず空白にします。
LAN側	IPアドレス	DMZとしてアクセスを許可するLAN側のクライアント(パソコン)のIPアドレスを入力します。

3 設定内容が登録されます。**戻る** ボタンをクリックします。

BroadStar
簡単設定

番号 1 を登録しました。

戻る クリック

4 設定画面に戻ります。登録した内容が表示されます。さらにDMZを設定する場合は、手順 **1** ~ **4** の操作をくり返します。

5 すべてのDMZの登録が終われば、**保存** ボタンをクリックします。

BroadStar
DMZ設定

簡単設定
設定状況
PPPoE接続
PPPoA接続
ダイヤルアップ接続
詳細設定
無線LAN設定
MACアドレスフィルタリング設定
ネットワーク設定
バーチャルサーバ設定
DMZ設定

登録番号 **編集**

番号	有効	WAN側		LAN側
		プロトコル	IPアドレス	IPアドレス
1	☒	tcp	202.255.1.51	192.168.1.151
2	☒	tcp	202.255.1.51	192.168.1.152

削除番号 **削除**

保存 クリック



正常に登録されていない内容については、「有効」に×マークが表示されますので、編集で修正してください。

6 再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ~ **7** を参照してください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。

DMZの登録を削除する

登録したDMZを削除します。

番号	有効	WAN側		LAN側
		プロトコル	IPアドレス	IPアドレス
1	☒	tcp	202.255.1.51	192.168.1.151
2	☒	tcp	202.255.1.51	192.168.1.152

削除番号 **削除**

① 削除番号に削除したい登録番号を入力し、**削除** ボタンをクリックします。

② すべての削除が終われば、**保存** ボタンをクリックします。

③ メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ~ **7** を参照してください。

- ① 削除番号に削除したい登録番号を入力し、**削除** ボタンをクリックします。
- ② すべての削除が終われば、**保存** ボタンをクリックします。
- ③ メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ~ **7** を参照してください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。

パケットフィルタリング設定

クライアント(コンピュータ)ごとに指定したパケットのやり取りを遮断することができます。WAN側からの不正アクセスを防ぐのに有効です。初期値で4個のパケットが遮断されるように設定されています。特に理由がない限り、この4個の設定は有効にしておいてください。最大64個のパケットを登録することができます。

◆パケットフィルタリング設定

番号	有効	インターフェイス	プロトコル	IPアドレス	ポート
1	☒	ADSL	tcp		137:139
2	☒	ダイヤルアップ	udp		137:139
3	☒	ADSL	tcp		137:139
4	☒	ADSL	udp		137:139

パケットを登録する/登録内容を編集する

- 新しく登録する場合は登録したい番号を入力します。すでに登録した内容を編集する場合は、その登録番号を入力します。 **編集** ボタンをクリックします。

- 新しく登録する場合は、未使用の番号(5番以降)を入力します。
- 編集** ボタンをクリックすると、新しく登録する場合は登録番号だけが、編集の場合はその登録番号の設定内容が表示されます。

- 各項目を入力または編集し、 **登録** ボタンをクリックします。

有効	この番号の設定内容を有効にする場合にチェックします。
インターフェイス	WAN側のインターフェイスの種類をADSLまたはダイヤルアップから選択します。
プロトコル	バーチャルサーバとのアクセスを許可するプロトコルの種類をTCPまたはUDPから選択します。
IPアドレス	パケットを遮断するクライアントのIPアドレスを指定します。
ポート	遮断するサービスポートを指定します。

MEMO

ポートの入力について

連続したポートはポート番号の前後に「:」を入力します。137~139の場合は「137:139」と入力します。ポート番号が連続しない場合は、それぞれのポート番号を個別に登録番号に設定してください。

- 設定内容が登録されます。 **戻る** ボタンをクリックします。

- 設定画面に戻ります。登録した内容が表示されます。さらにパケットを設定する場合は、手順 **1** ~ **4** の操作を繰り返します。

- すべてのパケットの登録が終われば、 **保存** ボタンをクリックします。



正常に登録されていない内容については、「有効」に×マークが表示されますので、編集で修正してください。

- 6** 再起動を促すメッセージが表示されますので、メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ~ **7** を参照してください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。

パケットの登録を削除する

登録したパケットを削除します。

番号	有効	インターフェイス	プロトコル	IPアドレス	ポート	
	☐	ADSL	tcp			登録
1	✓	ダイヤルアップ	tcp		137:139	
2	✓	ダイヤルアップ	udp		137:139	
3	✓	ADSL	tcp		137:139	
4	✓	ADSL	udp		137:139	
5	✓	ADSL	tcp	192.168.1.14	9999	

削除する番号を入力します。

削除番号: 5

削除

1 入力する

2 クリック

- ①削除番号に削除したい登録番号を入力し、**削除** ボタンをクリックします。
- ②すべての削除が終われば、**保存** ボタンをクリックします。
- ③メッセージに従って再起動してください。詳しい説明は39ページ手順 **4** ~ **7** を参照してください。



再起動する場合の注意

システムが再起動するまで約2分かかります。Powerランプが点滅している間は設定ユーティリティを操作したり、本製品の電源を切ったりしないでください。

その他の機能

Laneed

ログオフボタン

設定ユーティリティにクライアント(コンピュータ)のだれかがログオンしていると、他のクライアントは設定ユーティリティにログインすることができます。何らかの理由でログオン中に別のクライアントから設定ユーティリティにアクセスしたい場合は、ログオン中のクライアントは、**ログオフ** ボタンをクリックしてログオフしてください。

ファームウェアを更新する

ファームウェアを更新すると本製品の機能が向上したり、動作が安定したりします。ファームウェアが更新されると当社ラニード・ホームページ(<http://www.elecom-laneed.com>)にアップデートが掲載されますので、定期的に当社ラニード・ホームページをご覧ください。

●更新の方法について

本製品のファームウェアはWindows上から実行するプログラム形式のものです。Windows対応のコンピュータから実行してください。実行方法については、ホームページのダウンロード時に表示される内容、またはたアップデートに添付されているファイルを参照してください。

インターネットに接続できない

- インターネットへ接続するための契約などはすべて完了していますか？ 屋内への回線引き込み工事およびモデムの準備は完了していますか？

→すべての契約と工事が完了していないと、本製品のセットアップが終わってもインターネットに接続することはできません。

- 本製品およびモデムのPOWERインジケータは点灯していますか？

→電源コードまたはACアダプタが正しく接続されているか確認してください。ACアダプタは各製品に付属のものをお使いください。

- ADSL接続の場合は、本製品のLinkランプが点灯していますか？

→Linkランプの状態によって原因が異なります。

- ①Linkランプが点灯している。

プロバイダと接続状態になっています。ホームページ等が表示されない場合は、何らかのフィルタリング機能が設定されていないか確認してください。

- ②Linkランプが点滅している。

Linkランプが点滅している場合は、ADSL回線とのリンクは確立していますが、プロバイダと接続できていません。「起動時接続」を「しない」に設定している場合は、〈PPPoE接続〉または〈PPPoA接続〉画面で **接続** ボタンをクリックしてください。それでも接続できない場合や「起動時接続」を「する」に設定しているのに接続できない場合は、各設定画面の設定内容が間違っていないか確認してください。

- ③Linkランプが消灯している。

Linkランプが消灯している場合は、ADSL回線と本製品との間でリンクが確立されていません。いったん本製品の電源を切り、ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

- LD-WBBR/Bの場合、モデム～本製品間はイーサネットケーブルで正しく接続されていますか？ リンクは確立していますか？

→イーサネットケーブルが正しく接続されていても、ストレート/クロスの変換が必要な場合があります。本製品のLinkランプが消灯している場合は、モデム側でストレート/クロスの切替スイッチを切り替えるなどしてください。

- クライアント(コンピュータ)またはHUBと本製品はイーサネットケーブルで正しく接続されていますか？ リンクは確立していますか？

→本製品とコンピュータを1対1で直接接続する場合はクロスケーブルが必要です。また、HUBと接続する場合はストレートケーブルで接続します。見つからない場合はケーブルの接触不良や断線などが考えられます。

- クライアント(コンピュータ)にTCP/IPプロトコルが設定されていますか？ IPアドレスは自動取得になっていますか？

→クライアント側のネットワーク設定が正しくないとインターネットに接続できません。プロトコルにTCP/IPが設定されているかを確認してください(➡27ページ参照)。ただし、ネットワーク管理者が存在するネットワークの場合は管理者に確認してください。

- クライアント(コンピュータ)のWebブラウザのアドレスに、本製品のLAN側のIPアドレス(初期値は192.168.1.254)を入力すると、設定ユーティリティの〈基本設定〉画面が表示されますか？

→〈基本設定〉画面が表示される場合は、クライアント～本製品間は正常につながっています。表示されない場合は、ケーブルの問題またはコンピュータ側のネットワーク設定の問題が考えられます。また、クライアント側のIPアドレスなどが正常に取得されていないことが考えられます。Windows Me/98の場合は、コンピュータの[スタート]→[ファイル名を指定して実行]で「winipcfg」と入力し、そのクライアントのIPアドレスやサブネットマスクなどの情報を確認してください。これらの情報が正しくない場合は「すべて書き換え」を選択し、再取得してください。詳しくは64ページ「IPアドレス等がわからない」をお読みください。Windows 2000/NT 4.0では「ipconfig」を実行します。

- プロバイダの接続タイプと、簡単設定で選択した接続の種類が一致していますか？

→接続の種類が異なると正しく接続できません。接続の種類がわからない場合は、本製品の接続タイプを説明し、どのタイプが該当するかをプロバイダにお尋ねください。

- 基本設定の設定内容は正しいですか？

→各項目の入力項目が正しいかを確認してください。特にパスワードは表示されませんので、入力ミスがあってもわかりませんのでご注意ください。

- ネットワーク設定などを変更していませんか？

→IPアドレスの変更などが関係する設定を変更している場合は、各クライアント(コンピュータ)のIPアドレス等を書き換える必要があります。64ページ「IPアドレス等がわからない」をお読みください。

無線LANアダプタから接続できない

●通信モードを正しく設定していますか？

➡無線LANアダプタの設定で、通信モードが「アドホック・モード(アクセスポイントを使用しない)」に設定されていると、本製品を見つけることはできません。本製品を使用して通信する場合は、「インフラストラクチャ・モード(アクセスポイントを使用する)」に設定してください。

●無線LANアダプタから本製品の設定ユーティリティにアクセスする場合、本製品の設定をする前に、無線LANアダプタの設定を変更していませんか？

➡新規導入時に無線LANカードから本製品の機能を設定する場合は、無線LANアダプタの設定を初期値にしたまま、本製品に接続します。本製品を設定するより前に、無線LANアダプタの設定を変更してしまうと、本製品を見つけることができません。このような場合は、無線LANアダプタの設定ユーティリティでESS-IDを「Laneed」に、WEPを使用しないに設定して接続してください。

●本製品と無線LANアダプタのESS-IDは同じに設定されていますか？

➡無線LANアダプタのESS-IDと本製品のESS-IDが異なると、無線LANアダプタから本製品を見つけることができません。

●無線LANカードだけ、または本製品だけにWEPを設定していませんか？

➡一方だけにWEPを設定している場合は、無線LANカードから本製品を見つけることができません。そのため、無線LANカードから本製品の設定を変更することもできなくなります。

注：有線LANがない環境で本製品に間違ったWEP設定をした場合は、一時的に有線LANで設定ユーティリティに接続して変更するか、リセットを実行してください(➡65ページ)。ただし、リセットするとすべての内容が初期値に戻ります。

IPアドレス等がわからない

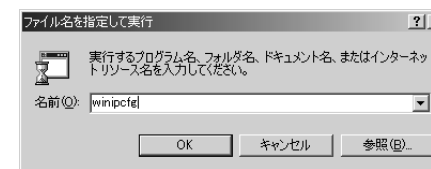
Windows Me/98でクライアント(コンピュータ)のIPアドレスがわからない場合は、次の手順で調べてください。



Windows 2000/NT 4.0では「ipconfig」を実行してください。

①[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。

②「名前」に「winipcfg」と入力し、**OK** ボタンをクリックします。



③<IP設定>画面が表示されます。終了するときは、画面右上の **X** をクリックします。



●もし、IPアドレス、サブネットマスクなどが正常に取得できていないようであれば、**すべて書き換え** ボタンをクリックします。

●IPアドレス自体が取得できない場合は、クライアントが正常にネットワークに接続されていない。または本製品のDHCPサーバ機能が「使用しない」に設定されているなどが原因として考えられます。

設定がわからなくなってしまった

次の手順で本製品を工場出荷時の初期状態に戻します。

●リセットの方法

- ①Powerランプが点灯した状態で、芯の出ているシャープペンシルなど先の細いものでリセットスイッチを5秒以上押し続けます。
- ②Linkランプが点灯したら、リセットスイッチからペン先などを離します。
- ③Powerランプが点滅から点灯に変わるまで待ちます。
- ④Powerランプが点灯すればリセットは完了です。

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。サポート情報、製品情報に関しては、FAX情報、インターネットでも提供しております。なお、サポートサービスを受けるためには、必ずユーザ登録をおこなってください。

●ラニード・サポートセンター

TEL : 03-3444-5571 FAX : 03-3444-8205

受付時間：月～金曜日 9:00～12:00 13:00～18:00
(夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除きます)
※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●インターネット

<http://www.elecom-laneed.com>

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。
ガイダンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)

559900

電話番号

東京：03-3940-6000	大阪：06-6455-6000
名古屋：052-453-6000	福岡：092-482-6000
札幌：011-210-6000	仙台：022-268-6000
広島：082-223-6000	

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えてご連絡ください。

保証期間内

まずは、上記のラニード・サポートセンターまで電話またはFAXでご連絡ください。

保証期間外

東京都八王子市子安町3-5-2 セキエレクトロニクス株式会社内
エレコム修理センター
電話番号 0426-31-0271 FAX番号 0426-31-0272
受付時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
(ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日は除く)
※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次の事項を確認してください。

- ・このマニュアルの62ページ「11.こんなときは」をお読みになりましたか。まだ、お読みでない場合は、お電話の前にお読みください。
- ・システムを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。
- ・異常のある製品を取り付けたコンピュータの前から会話が可能な場合は、コンピュータの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェックできますので、解決しやすくなります。
- ・FAXを送られる場合は、付属の別紙「トラブルシート」に、できるだけ詳しい内容をご記入ください。

次のことをお調べください。

●ネットワーク構成

使用しているネットワークアダプタ:
使用しているOS:
使用しているコンピュータ本体(メーカーおよび型番):
ネットワークを構成するコンピュータの台数とOSの構成:
ネットワークを構成するその他の関連機器(HUB、ルータ等) :

●具体的な現象について

具体的な現象:
事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

	LD-WBBR/A	LD-WBBR/B
●ADSL部		
伝送方式	ITU-T992.2 (G.lite) Annex C	—
通信速度(下り)	最高1.5Mbps	—
通信速度(上り)	最高512Kbps	—
WANプロトコル	RFC2364 (PPP over ATM) RFC2516 (PPP over Ethernet)	—
インターフェイス	RJ11×1	—

●USB接続部

接続機器	—	ITU-T992.2 (G.lite) Annex C仕様のADSLモデム ※動作確認モデムリストをご確認ください。
接続	—	USBケーブル
WANプロトコル	—	RFC2364 (PPP over ATM) RFC2516 (PPP over Ethernet)
インターフェイス	—	USB (Atype)

●一般仕様

対応OS	Windows 98/Me/2000	
電源	DC5V 1.2A	
外形寸法	W135×D179×H35(mm)	
重量	370g	310g

	LD-WBBR/A	LD-WBBR/B
●無線LAN部		
規格	IEEE802.11/IEEE802.11b、ARIB STD-33/STD-T66	
周波数帯域	2.4GHz (2.400~2.497GHz)	
チャンネル	1ch~14ch	
伝送方式	DS-SS方式(直接スペクトラム拡散方式)	
暗号化処理	WEP128/WEP64 (WEP40互換)	
伝送速度	11/5.5/2/1Mbps	
セキュリティ	ESS-ID、MACアドレスフィルタリング、WEP	
アンテナ	ダイバーシティ対応アンテナ	
送信出力	5mW/MHz	
伝送距離	屋内約30m、屋外約50m (使用環境によって異なります)	

●ルータ部

WAN側 インターフェイス	RJ11×1 RC-232C×1	USB (Atype)×1 RC-232C×1
LAN側 インターフェイス	有線：IEEE802.3/IEEE802.3u (10BASE-T/100BASE-TX) RJ45×1 無線：IEEE802.11b	
対応回線	ADSL、アナログ・ISDN回線 (RC-232Cよりモデム・TA接続のみ)	
ルーティング方式	スタティック	
アドレス変換方式	NAT/IPマスカレード	
対応プロトコル	TCP/IP	

ADSLモデム内蔵 無線ブロードバンドルータ LD-WBBR/A
ADSL USBモデム対応 無線ブロードバンドルータ LD-WBBR/B

ユーザズマニュアル
発行 エレコム株式会社
2001年9月3日 第1版

Laneed

ELECOM